令和５年度化学肥料低減定着対策事業にかかる機械導入効果報告書

〇事業の目的

化学肥料の２割低減に向けた取組の定着のため、地域における肥料の効率利用に資する可変施肥機及び局所施肥機の導入に係る費用の支援を通じて、導入効果を広く明らかにし、肥料の効率利用を図る。

〇事業対象となった農業用機械

・局所施肥乗用田植機８条　クボタNW 8S-F-GS
　（乗用田植機６条　からの買い替え）
・鉄まきちゃんDS-80F

〇事業対象機械の機能

・施肥量の調節はコックピットのマルチスイッチで設定するため、より高精度な施肥が可能
・将来的なKSAS連動により、ほ場ごとに事前に設計した施肥量データに従って、自動で施肥量及び計量値の変更が可能
・直播アタッチの活用により、移植栽培と同様に直播栽培でも側条施肥による肥料削減が可能

〇実証

事業により導入した田植え機（R6）と従来のもの（R5）の肥料の消費量について、事業取組者の計画した施肥量と比較することで、導入成果の検討を実施する。

事業取組者による年度ごとの施肥実績及びその比較は下記の通り

		R5（導入前）	R6（導入後）
肥料所有量	前年在庫(kg)	600	840
	購入量(kg)	3,750	3,000
施肥実績(kg)　【A】		3,510	3,705
施肥計画(kg)　【B】		3,160	3,787
施肥実績/施肥計画　【A/B】		111%	98%
施肥計画との差異		11%	2%
翌年繰越(kg)		840	135

〇結果

従来の田植え機を利用したR5年度と、事業により導入した田植え機を利用したR6年度を比較すると、施肥計画との差異に大きな差が出た。

〇農業者の声

従来の田植え機での施肥はオペレーターの感覚頼みであったが、新たな田植え機では肥料ごとの比重測定の上でデジタルメーターを利用した計量・施肥が可能になった。これにより、正確で無駄の少ない作業ができていると感じる。今後はKSASの利用についても検討していきたい。